

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4793400039		
法人名	株式会社 スリーピース		
事業所名	グループホームとことん		
所在地	沖縄県島尻郡与那原町字板良敷161番5		
自己評価作成日	2025年1月20日	評価結果市町村受理日	令和7年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	kaigokensaku.mhlw.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和6年 2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、実際に避難所へ避難する機会もあり、避難訓練やBCPに関連する訓練に力を入れています。役場内関係3課にご協力いただき、土砂災害警報発令時の避難方法、避難先の受け入れ体制について話し合い、実践することができています。机上訓練においては、防災士の方と役場関係課の課長に立ち会っていただき、直接ご助言いただいて避難計画やBCPに反映することができています。更に、町から提供していただいた防災食をはじめ、事業所内で何度も防災食訓練を行っています。各訓練実施時には、参加職員で問題点や解決策について議論し、次回に解決策を実施するなど、毎回の経験を活かすことができています。
また、ご家族との関りについても力を入れており、ご家族にお集まりいただいて運営等についての情報共有会を開催し、第1回とことん祭りでは、ご家族にも運営にお力添えいただき、ご利用者、ご家族、職

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人理念の実現に向け、年度初めに職員の思考を反映した事業所独自のスローガンを作成し、利用者、家族と一緒に笑って生活が送れるように日々のケア実践に取り組んでいる。職員は小さな自己決定を大切にしたい意思決定支援に努めている。災害対策への意識が高く、今年度は行政機関と協働で避難訓練の実施をしている。災害に備え防災リュックを2つ以上準備し、薬は訪問薬剤師とローリングストックにて定期的に確認、管理している。事業所は近隣住民、地域の学童や専門学校、他事業所と平時から交流の積み重ねにより協力体制が構築されている。食事の準備や食器洗いなど利用者の能力を活かした支援を行い、食事は職員と一緒に楽しみながら食べている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに、法人理念について職員ミーティング内で再確認し、それを踏まえた事業所のスローガンを、職員から募集したキーワードを役職者にて組み合わせて文章化し、法人理念とともに玄関へ掲示している。 また、年度が変わる際には、スローガンの達成状況を皆で確認し、見直し等行っている。	開所時より掲げている法人理念の実現に向け、年度初めに職員の思考を反映した事業所独自のスローガンを作成している。理念とスローガンは玄関先、事務所内の目に触れやすい場所に掲示し、日々のケアの実践で、利用者、家族も一緒に笑って生活が送れるように意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として所在する地区の自治会に加入しており、区長や区の民生委員の方に運営推進会議に参加していただいて情報交換を行っているほか、区の清掃活動に職員が参加し交流を図っている。また、敬老会や福祉まつりといった、町の行事に参加したり、近隣の方と野菜などを交換し合ったりといった交流を図っている。	事業所は地域の清掃、イベントへは利用者も参加し住民との交流を図っている。近隣住民よりバナナの差し入れや野菜作りのアドバイスがあり良好な関係を築いている。地域の学童や専門学校とイベントの開催、大学生による将棋ボランティアなど活動が充実している。管理者は地域の商業施設で救急法体験のボランティア活動に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長や民生委員の方々へは、運営推進会議において、認知症ケアの実践を知っていただき、理解を深めていただく機会があるが、地域に出向いての啓蒙活動等は、まだ行えていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議内で課題として挙げさせていただいた、土砂災害に関する避難指示が発令された場合の対応について、町福祉課を中心とした関係3課にご協力いただいて、避難先、避難方法、避難受入れ方法について一緒に検討、調整を行うことができた。更に、その取り組みや計画を運営推進会議にてご家族や地域の方と共有している。	運営推進会議は利用者も自由に参加しやすいリビングで行われ、事業所の取り組み状況や改善に対し、意見や理解が得られやすいようにプロジェクター投影で説明工夫している。外部評価結果や運営推進会議の議事録は玄関先に保管し、いつでも閲覧できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は、町福祉課と連携して、避難確保計画を進めており、実際に避難所への避難訓練、避難指示発令による実際の避難実施など、協力体制が必要となる機会が多くあった。その際には、ご利用者の状態や、職員配置について情報共有し、どのような協力を必要としているのかについても共通認識することができた。	運営推進会議で役場職員より運営に関する情報や課題に対する助言を得ている。今年度、行政と協働し避難訓練を実施している。万が一を想定した場合の課題共有などに繋がっている。その他、町福祉課へ利用者の離設に備えた地域との連携など相談している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人勉強会や職員ミーティング内で、禁止の対象となる具体的な行為について確認し、それぞれがケアについて振り返る機会がある。その中で、「これは身体拘束にあたりますか？」といった疑問について皆で考え、身体拘束に至らない為の対応策について意見を出し合うことができている。また、認知症ケアの実践と医療との連携により、身体拘束には至っていない。	身体拘束をしないケア実現に向け、研修や職員ミーティングで理解を深めている。自立支援を大切に、出来ない部分の支援を意識しているが、場面によって即対応していないか日頃のケアの見直しの機会にも繋がっている。身体拘束適正化検討委員会は運営推進会議を活用し開催している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人勉強会や職員ミーティング内で、虐待防止について学ぶ機会を設けており、事例検討など必要時には、再度高齢者虐待について確認しあってから議論に入るようこころがけ、日ごろから職員が「不適切なケア」について疑問を持つことができるような環境づくりに努めている。	高齢者虐待防止の指針の整備、対策を検討する委員会の設置や開催が確認できた。管理者は職員が自立を促す声掛けで、適切な対応が出来るよう注力している。社内研修や職員ミーティングでの研修資料はあるが研修報告書が確認できなかった。	定期的な研修実施の確認ができる研修報告書の作成が望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する学びは、職員ミーティング内で設けているが、これまで当事業所には必要性のあるご利用者がいなかったため、日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けていなかった。 年度内(2月度法人勉強会)に、人権擁護委員の方を講師でお招きすることになっており、その中で人権擁護とともに学ぶ機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、事務局と管理者にてご家族が納得、安心して契約することができるよう、面談形式でお話する機会を設けている。 また、改定が生じた場合には、ご家族向けの説明会を開催し、参加できないご家庭には別日で日程を調整するなど、必ず全ご家庭に直接ご説明させていただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご感想は多くいただくが、ご意見やご要望は出てこない。コロナ禍で書面にて開催していた時には、返書の中にご要望を書いてくださることもあった。 ご意見箱を玄関に設置しているが、ご利用者やご家族に認識していただけていない可能性がある。	利用者からの外出や外食の要望に対し、個別または全体で実施している。家族へLINEやInstagramを通して、こまめに近況報告し、意見や要望など発しやすいように配慮している。介護保険報酬改定など家族向けの説明会を開催し、運営の好影響に繋がっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティング内で、職員が意見を述べる機会を設けているほか、年度の初めには、一年間で行ってみたい行事や個別支援、職員本人がチャレンジしてみたいことなどについて提案してもらい、スローガンの見直しも職員みんなで行うなど、意見や希望を運営に反映しやすい体制を取っている。	職員はミーティングの機会に、利用者からの声を代弁し、開所以来初の祭り開催の実現が出来た。柔道整復師の資格を保有している職員の目標に対し、技術活用場を設けている。災害の物品において活発な提案や要望あり、経営者と一緒に進めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も積極的に事業所の運営や業務に関わり、直接的に管理者や職員の勤務に対する姿勢や実績、努力を確認することができる。また、研修機会の提案や、個々の能力を活かすケアの提案を行うなど、向上心を引き出す工夫をしている。更に、より効率的に業務を行うことができるよう、職員の意見を聞き、環境整備、業務量の調整に努めている。	管理者は職員の生活スタイルに合わせ、勤務時間や希望休の調整など働きやすい環境体制に努めている。業務改善に向け、タブレット端末を導入後、効率的なケア記録や社内・社外との円滑な連携に繋がっている。ハラスメント防止の為、マニュアル整備や研修の実施、相談窓口の設置をしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の適性を判断して順次外部の研修への送りだしており、学んだことを職員ミーティング内や法人勉強会内でアウトプットとフィードバックの機会を設けるようにしている。また、職員育成のため、本年度は管理者が認知症介護実践リーダー研修を修了しており、今後はOJTの充実も図っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より、グループホーム協会へ再加入しており、同業者と交流する機会となっている。また、管理者が認知症介護実践リーダー研修を修了し、その過程で多くの他事業所管理者及び役職者と情報交換を行うことができるような深い繋がりを持つことができた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所の見学時や、契約時に心配事や困りごと等についてお聞きするようしており、入居当初は可能な限り職員を加配し、少しでも安心して過ごしていただくことができるよう、一対一で傾聴して寄り添うことのできる体制をとり、早期の信頼関係構築を図っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前の相談、契約時にそれぞれ時間をかけてお話を伺い、お互いに不安要素について話し合い、解決方法を検討している。 入居後には、LINEにてキーパーソンの方と繋がることにより、気軽に情報共有、相談することができる環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居時点で、ご本人が安心して安全、且つ健康に生活するために必要性があると判断した場合、若しくはご家族から希望があった場合には、訪問診療の導入や福祉用具レンタル等について情報提供し、ご家族に判断していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の分担や、生活の知恵といった助言をいただくなど、職員も助けられる場面が多々ある。主婦の先輩、人生の先輩として助けていただきながら、ご利用者も職員も、それぞれの得意やできることを活かして共に支えあって生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限等は行っておらず、いつでも気軽にご面会にいらっしゃるようご家族にお声かけしている。また、ご家族と外出された際にご本人が混乱してしまうことの無いよう、日頃の様子や活動などについて、LINE等で情報共有しており、ご家族にもご自宅にいたころのケア方法についてご助言いただくなど、ともに協力してご利用者を支える体制をとっている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居された時点で、なじみの人や場所との関係が途切れてしまっていたり、覚えていない方も多いが、ご家族やご本人から情報があった場合には、個別支援の一貫として訪問するなどの支援を行っている。	入居後も行きつけの美容室の利用や商店を営んでいた方の同業者との再会実現など関係性の継続に取り組んでいる。出身地に思いを寄せている利用者へはドライブを企画し、馴染みの場所へ出向いている。運営推進会議の構成員と会話の中で共通の知人や話題があり、地域に繋がる機会となっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者に影響されることなく、ご自身のペースで過ごすことができるように席の配置を工夫しているが、その時々の関係性や、ご本人の希望に沿って臨機応変に対応し、トラブルになるような状況以外は、職員は敢えて介入せず、ご利用者同士で協力したり、自然に生まれる和や相互作用を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取り以外で退所される方がいらっしゃらないが、入院等で一時的に退所される方については、医療機関やご家族とこまめに情報を共有している。 また、お看取り含め、退所後もご家族とLINE等で繋がっているため、必要時にはお互いに連絡できる環境にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなかご自身の思いや暮らしの希望をお話することのできるご利用者がいらっしゃらないが、ご家族からの聞き取りや、ご本人のつぶやきから思いを汲み取り、表情などの反応について職員間で情報共有しながら、ケア方法や活動内容について検討している。	職員は一方的にならない様、日頃より個々の思いや意向に関心を持ち、小さな自己決定を大事にした支援を心掛けている。着替えの衣類選択など生活の些細なことの実現を大切にしている。看取り期の利用者の思いを汲み取り、家族の協力のもと、自宅で収穫したシークァーサーを食した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や以前にいた施設等からの情報収集を行っており、ご本人の生活歴や習慣等を把握し、日々の暮らしや活動、ケア方法に活かすことができている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態だけではなく、認知機能や理解・判断能力など、日々、時間ごとに変化する状態を把握し、職員間で情報共有することで、その状態に合ったケア方法を選択することができている。また、職員ミーティング内でもご利用者の近況や変化について情報共有する機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	これまでも、ご利用者の状態や活動等についてミーティング内で情報共有を行ってきしたが、今年度からは、介護計画の短期目標の更新に合わせて、ミーティング内でモニタリングと課題抽出、短期目標の確認を行い、それによって作成された介護計画を職員に周知している。そのため、ご本人、ご家族、職員、それぞれの意見や希望を反映した介護計画にすることができている。	職員ミーティングで情報共有し、よりよい生活に向け、課題の抽出やケアのあり方を見直している。利用者、家族の意向、職員、関係者からの支援に対する提案など意見交換し、現状に即した介護計画に反映させている。モニタリングは短期目標期間または状態、意向に応じて実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現時点では、活動内容の他には、各職員の気づきや、ご利用者のつぶやきをケア記録に記載して情報共有するにとどまっているが、少しずつ、ケアの実践と、その時のご利用者の反応について記録することができるようになってきている。その記録を計画作成担当者や看護師が抽出し、介護計画や医療連携に活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望や状態に合わせて飲食物の提供方法やタイミングを工夫し、その際にご家族のご理解を得て、購入等ご協力いただくなど、その方特有のケアを行っている。そのため、一人ひとりに対し、柔軟で特別な対応を行っており、多機能化に取り組んでいると言えると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方を支える地域資源について、現時点では把握できていないが、馴染みのある地名や店名などについて把握し、会話の中に盛り込むことで、回想法であったり、地域への帰属意識を持っていただくことにつなげることができている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、ご家族の希望や、細やかな医療との連携体制が必要により、ご利用者全員が訪問診療を導入しており、情報共有しやすく、早い段階で対応できるような体制を構築することができている。必要時には、訪問診療主治医より専門医療機関へ紹介していただき、ご家族にて受診していただいている。そのため、医療機関間でも情報共有されている。	新しい入居の1名は、通院にて入居前のかかりつけ医にて健康管理を行っている。8名の入居者に関しても訪問診療を利用している。施設の入居連絡票を用いて、本人状況を家族、職員、関係者で情報共有し、タイムリーに必要な情報はLineグループを活用している。他科受診、健康検査は医師と相談している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師とは急を要する報告や、指示が必要な件については電話やLINEで連絡し、その他については記録に残し伝達している。 訪問看護は、訪問看護特別指示書が医師から出ている期間のみの関わりとなるが、こちらも電話やLINEで細やかな情報共有体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の医療機関の地域連携室とは、必要時に情報共有を行うことができおり、今後は協力医療機関と常に情報共有できるような体制構築について模索している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では、看取りも含めた終末期のあり方について、入居時や状態の変化に応じて、ご家族と話し合いを行っている。 また、その際には訪問診療を導入し、必要時にはご家族、主治医、施設職員にて話し合う機会を設け、ご本人やご家族の不安を軽減し、ご意向に沿ったケアを行うことができるよう体制を整えている。	看取り時に訪問診療の医師による説明と同意を得ている。医療連携体制についても医師、看護師、薬剤師と24時間の協力体制が整えられている。事業所は本人・家族の気持ちの変化に話し合う機会を設け、意向に沿ったケアの説明・同意を得ているが、重度化や終末期に向けた方針(指針)の確認が出来なかった。	重度化や終末期に向けた事業所の方針(指針)作成が望まれる。
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年度に、ほとんどの職員が救命講習を受講しており、前年に受講していない職員は今年度受講を予定している。今後、定期的に救命講習を受講できるよう、管理者が普及員講習を修了しており、消防職員のカも借りながら救命講習及び応急手当等の訓練を自施設内で開催予定であったが、実施できず、次年度への持ち越しとなっている。	職員は救命講習を受講し、利用者の急変や事故発生時のマニュアルは整備され平時から意識が高い。転倒時の利用者の判断に困るケースもあり専門家との勉強会も今後は予定している。事故やヒヤリハットが発生した際に再発防止の検討を職員で行っている。また年間のヒヤリハットを集計分析し、チームで予防していく方向性である。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	災害発生を想定した避難訓練を昼夜どちらも実施しており、役場福祉課等関連3課にご協力いただいて、避難所への避難訓練も実施し、運営推進会議内で報告している。 感染症については、感染管理認定看護師による研修を受講しており、3月には感染症に関する机上訓練を実施予定である。	業務継続計画は作成され、各種災害マニュアルも整備されている。昼夜の訓練に関して昼訓練2回以上、夜間訓練は夜間に1回行っている。災害リュックも2つ以上準備されている。また薬剤師と連携し災害リュックに入居者の処方も保管しローリングして定期的に把握している。行政とも連携し平時より良い関係を構築している。	

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切なものにならないよう、その方が心地よく感じるような声かけやケアについて工夫し、職員間で情報共有して対応している。	個人情報、保護方針の利用目的について玄関先に掲示し公表されている。不適切ケアを普段から職員ミーティングを活用して勉強している。また、気になる声掛けをしていた場合は、その都度説明し修正できる良い人間関係の職場環境である。就業規則、重要事項説明書へ職員の守秘義務も明記されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時に更衣する衣類の選択や、おやつやドライブ先の希望など、小さな自己決定を生活の中で常に求めるよう心がけ、思いを引き出す声かけの成功事例等について情報共有し、実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内には、自室や自席のほかにくつろぐことができるスペースがあり、集団活動時以外には、そこで思い思いに過ごすことができるように環境を工夫しており、その都度どこでどう過ごしたいか等について、ご本人に確認してから案内するよう心がけている。また、可能な限り職員体制等に影響されないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする習慣のあった方は、その習慣を継続することができるよう支援し、化粧品をご自身で購入することができるよう外出支援も行っている。 また、色をご自身で選択していただきマニキュアを塗ったり、おしゃれをして外出するようなイベントを企画するなど支援を工夫している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれのご利用者の能力に合った役割を分担し、ご利用者の力も借りながら食事の準備、片づけ、食器洗いなどを行っている。関わった方のお名前を出してメニュー紹介をするなど、食事への興味や意欲につながるよう工夫している。 週に2、3回はご利用者と一緒におやつ作りを行い、月に2回は夕食作りを行っている。	職員と一緒に、楽しみながら昼食を食べている。利用者毎の食事形態一覧表も整備し、季節の旬な素材、利用者の要望を汲み取って献立を作成している。食事の準備、食器洗いも利用者の能力を活かしながら一緒に行っている。また食思低下しないように家族からの嗜好品の聞き取り等も行い工夫している。夕食は配食を利用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食意欲の低下の原因や好みについて観察、検討し、それぞれのご利用者ごとに食事・水分の内容や形態、食器を工夫している。 また、時間帯や席の配置なども工夫し、職員ミーティング内で反応等について情報共有し、必要時には再検討するなど、常によりよい支援を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔内の状態や習慣等に応じた口腔ケア方法や用品について工夫している。必要時には訪問歯科の往診を依頼し、その際にケア方法についても指導していただいている。また、拒否のあるご利用者への声かけの方法や清潔保持方法について、成功事例等を職員間で情報共有し、不快な思いをすることなく行うことができるよう模索している。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の希望であったり、腹圧をかけることで自然に排泄できることを期待し、全介助の方でも日中はトイレを使用していただいて排泄の失敗を減らすことができていた。また、排泄のパターンを把握して、その時間に案内するように心がけ、失敗を減らすことができるよう、職員ミーティング内で検討し、工夫している。	排泄支援について、データ管理されおり利用者毎に排泄パターンが把握できるように工夫している。トイレを失敗した際に職員は羞恥心に配慮した声掛けをし、本人の尊厳を大事に排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は、認知症の行動・心理症状が表出する要因となり得るため、なるべく下剤に頼らない排便コントロールを目指している。例えば、適度な運動だけではなく、水分摂取量が排便の有無、形状等に影響することを共通理解し、個々の好みを調査して、可能な限り美味しく適切な量飲んでいただけるよう工夫している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、自ら入浴を希望される方がいらっしゃらないので、入浴は定期で案内させていただいているが、その中で何番目が良いか、何時が良いかといった希望をご本人に確認するよう心がけている。また、個々のこだわりや習慣について職員間で共通理解し、必要物品の用意や、好きな音楽を流すなど、少しでも入浴時間を楽しんでいただけるよう工夫している。	夏は週3回、冬は週2回を基本としている。本人が『お風呂入りたい』と要望があれば、期待に沿える体制である。本人の思いを汲み取りこだわりの石鹸等を準備し楽しめる入浴支援を工夫している。また入浴拒否傾向の利用者に対しても背景をさぐり好きな音楽を流すことで支援に繋がっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋で過ごすことを不安に感じる方もおり、昼夜問わず、ご本人が安心できる場所で休んでいただくことができるよう環境を整えている。 また、脳の疲労軽減のためにも、30分程度の午睡を推奨しており、それぞれのタイミングで、休みやすい場所でお好きな音楽を流すなどして工夫しており、午睡や睡眠が与える認知症の方への影響について職員間で情報共有している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変更になった場合には、経緯や主治医とのやりとりについて職員間で共有している。 また、副作用等介護職が注視すべき点があれば、施設看護師から指示を受け、観察、情報共有している。 細かい内容については、施設看護師と役職者にて把握し、必要な情報を職員へ周知している。	利用者毎の一覧表も作成し服薬管理マニュアルが整備されている。服薬方法もダブルチェックし、変更があった際にも記載し共有をおこない、安全に服薬ができる環境を整えている。ヒヤリハット・事故報告書に誤薬の報告は無く、薬の保管も訪問薬剤師、看護師と連携し職員間でも定期的に情報共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者の生活歴や得意、こだわりを活かした役割を担えるよう工夫しており、無理なく行っている。また、ご本人のお好きな飲食物をお出しできるよう、ご家族にもご協力いただいているほか、ご自身で購入することができるよう外出支援も行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突発的な希望に沿うことはなかなかできていないが、可能な限り、ご本人の嗜好品や生活用品を購入するために出かける機会を設けるよう努めている。 ご本人の希望するカラオケや外食などに出かけられるよう、ご家族にもご協力いただいている。	利用者、家族からのアンケートより外食、イベントの参加に関して感謝の声が寄せられている。日々、利用者の想いを汲み取りながら外出している。最近では、初詣、ピクニック、フードコートでの外食等を実施している。今後は、利用者の夢(宿泊等)を家族を交えながら、企画を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のお小遣いについては、職員で管理しているが、日ごろから、必要な時にはお声かけいただくようお願いしている。また、外出時には、可能な方にはご自身でお支払いいただいている。ご利用者の中には、ご本人の安心のため、ご家族と相談し、いくらかご自身で管理されている方もいらっしゃる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご家族への電話を希望される方は、現在お一人しかいらっしゃらないが、ご本人が希望される時にお電話できるよう支援している。また、日頃ご面会に見えられることの多いご家庭もあるが、改めて依頼して母の日の手紙をご家族に書いていただくなど、特別な機会を設けている。更に、希望されるご利用者は、年賀状もご家族へ書いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾を、ご利用者と一緒に制作して掲示するなど、温かい空間を目指している。また、不快な思いをしたり、気にすることがないよう、ご利用者の見える範囲には、可能な限り事務的な情報が無いように心がけ、生活に集中することができるよう工夫している。	居間には、利用者の意向に沿った場所にソファを配置してゆったりと過ごせる環境を整備している。利用者、家族の力を借りて一緒に装飾品を作成後、展示しアットホームな環境になっている。また、利用者のプロフィール、職員プロフィールを掲示してコミュニケーションの一助になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの他に、3か所ほどソファでくつろげる場所を設けており、食事や集団活動時以外には、好きな場所で、好きな音楽を聞いたり、おしゃべりしたり、お昼寝したり、思い思いに過ごすことができるよう環境を整えている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から家具を運び入れて設置しているご利用者もあり、入居時にはご本人とご家族で配置していただくことで、過ごしやすい環境づくりを行っている。また、なじみのあるものを配置しながらも、居室内でも安全にご自身のペースで行動することができるよう、支持物の設置や配置を工夫して動線を確保するなど、環境を整えるよう心がけている。	居室には、家族協力のもと、馴染みのハンガーラックやタンス等の持ち込み、意向に沿ったベッド配置と導線を確保しその人らしく過ごせる部屋に努めている。また居室電気もシーリングライト(白色/暖色)で切り替えができ、気分の変化にも対応できるようになっている。オムツも整理され、利用者が職員を呼ぶ際にはベッドにタンバリンが置かれナースコールの代替えとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り、ご自身で情報を取得して行動することができるよう、「看板」などを設置して工夫している。また、車いすやピックアップでご自身で移動することができるよう動線を確保するなど、安全に配慮しつつ、お一人おひとりが生活しやすいような環境づくりに努めている。		